

# 同和問題の解決に向けて

## 正しい人権意識で差別をなくそう

同和問題は、大変重要な人権課題です。同和問題をなくすための一番の近道は正しい人権意識を持つことです。「そっとしておけば、差別は自然になくなるのではないか」という意見もありますが、そうでしょうか。「人権擁護に関する世論調査」では、同和問題について初めて知ったきっかけは何からかという問いに対し、家族・親戚や近所、職場の人や友だちから聞いたと答えた人が約32%でした。人から聞いたうわさなどによって初めて同和問題を知った人が、誤った認識を持たないという保証はありません。えせ同和行為に出会った人が、きちんとした知識がないために間違った思い込みに陥ってしまう場合があります。そうならないためにも、同和問題を正しく理解し、解決に取り組むことが大切です。

差別に気づいていないこともあるでしょうが、仮に気づいていても、無関心を装う人も多いのではないのでしょうか。私たちは、世の中の差別を黙認することは差別を助長する、ということをしっかり意識しなければなりません。

また、**人権教育・啓発の推進に当たっては、県民一人ひとりに、人権の意義やその重要性が知識として確実に身に付き、人権問題を直感的にとらえる感性や、日常生活において、人権への配慮が、自然に態度や行動に現れてくるような人権感覚を育むことが重要です。**（広島県人権教育・啓発指針から抜粋）

誰もがわだかまりなく、心をひらいて人権問題や差別のことを話し合い、差別のない社会の実現に向けて努力を重ねていきましょう。21世紀は「人権の世紀」というのは、時の経過と共に自然と人権が保障されるようになる、という意味ではありません。真の「人権の世紀」は私たち自身の手で積極的に創り上げるものなのです。